



建設汚泥のリサイクル促進へ

泥土リサイクル協らが有効活用で公開講座

泥土リサイクル協会（木村孟理事長）は10月31日、資源循環コンソーシアム（代表・北辻政文宮城大学教授）、宮城県建設発生生土リサイクル協同組合（赤坂泰子理事長）との共催による「建設副産物ならびに循環資源の有効活用」公開講座を仙台市青葉区のエル

・パーク仙台で開いた。写真。

各発注機関の技術職員や建設業、中間処理業の技術者など約120人が参加。開会に先立って、宮城県建設発生生土リサイクル協同組合の赤坂理事長が「建設発生生土を再生利用し、限りある資源を次世代につなぐためにも、建設副産物の有効利用について正しく理解してほしい」とあいさつした。

とした講義では、泥土リサイクル協会の野口真一事務局長が「建設汚泥再生品を建設工事で活用するため」と題し、建設汚泥の分類や土砂との違いなどの基礎的な情報をはじめ、再生利用制度や個別指定制度、処理方法などについて紹介。同協会の鶴田稔グループ統括は「建設汚泥を処理したものを利用するために」と題し、建設汚泥を活用する際の留意事項やガイドラインなどを説明し

た。このほか、東北学院大学工学部環境建設工学科の飛田善雄教授が「建設発生生土改良技術ならびに東北地区における建設発生生土リサイクルの現状」、国立環境研究所福島支部の遠藤和人室長が「廃石膏ボードリサイクルの品質管理のあり方と社会実装」をテーマに、18年6月に策定した「再生石膏粉の有効利用ガイドライン（試行版）」について詳しく解説した。